

テーマC 関連オープンイベント 「河川環境と水資源を考えるシンポジウム」提言書

主 催： 河川環境と水資源を考えるシンポジウム実行委員会

日 時： 2007年12月2日 9:00 ~ 12:00

場 所： 別府市社会福祉会館

日本における水資源の確保と河川環境の整備・保全の取り組みは、アジア・太平洋地域において、先行的かつ貴重な経験であり、各国の状況に応じ効率的に活用していくために、国内やアジア・太平洋諸国の有識者を迎え、それらについて国際的な見地から議論を行った。

提 言

- ・ 水資源開発については、長期の時間と多大なコストを要するため、目先の需要だけではなく、長期的な視野で国策として水資源の確保を図るべきである。ただし、ダム建設は河川環境に様々な影響を及ぼすことから、建設に当たっては適切なアセスメントが必要であり、既存施設の有効活用も真剣に検討すべきである。
- ・ 既存の水資源施設が河川環境に及ぼす種々のインパクトを考慮して、今後の川づくりの中では、日本の国土に適した環境流量の考え方を確立するとともに、ダムの弾力的な管理などを更に展開することにより、その実現に努めるべきである。
- ・ 日本は多自然川づくりを実践し、河道の環境改善を進め、治水・利水と環境の調和した川づくりを目指してきた。今後、その実現に向けた取り組みを引き続き強化していく必要がある。
- ・ 生態系管理の視点を含めた河川環境の課題は、流量や水質の問題だけではなく、河道の環境を含め、水系全体として捉えるべきである。また、流域の視点で環境を管理することが重要である。
- ・ 巨大な人口を擁し、人口増が著しい都市を抱えたアジア・太平洋地域では、水資源の確保が今後とも必要とされている一方で、環境の課題も抱えている。水資源の確保と河川環境の整備・保全に取り組んできた日本の経験は、地理的・気候的条件などから直接応用できない部分もあるが、先行的な貴重な経験である。それらを各国の状況に応じ効率的に活用していくために、日本を含むアジア・太平洋地域の国々は活発な協力・実践を進めていくことが必要である。

主催 「河川環境と水資源を考えるシンポジウム」実行委員会

後援 土木学会(水工学委員会)、応用生態工学会、水文・水資源学会、国土交通省、(独)水資源機構
(財)ダム水源地環境整備センター、(財)リバーフロント整備センター、(財)河川環境管理財団